

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第35週 2023年8月28日（月）～ 2023年9月3日（日） 2023年9月7日作成

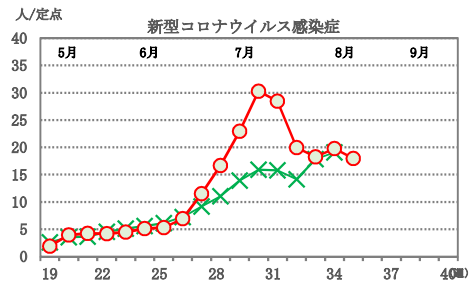
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）新型コロナウイルス感染症

第35週の報告数は1258人で、前週より127人少なく、定点当たりの報告数は17.97であった。

本調査における年齢階級別では、40～49歳（138人）、30～39歳（120人）、50～59歳（119人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（33.00）、県北保健所（31.00）、対馬保健所（24.67）であった。

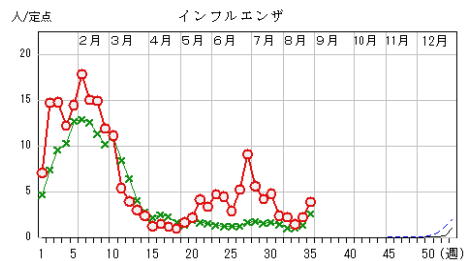


（2）インフルエンザ

第35週の報告数は274人で、前週より118人多く、定点当たりの報告数は3.91であった。

年齢別では、4歳（32人）、6歳（30人）、5歳（29人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（18.63）、県北保健所（8.75）、対馬保健所（8.00）であった。

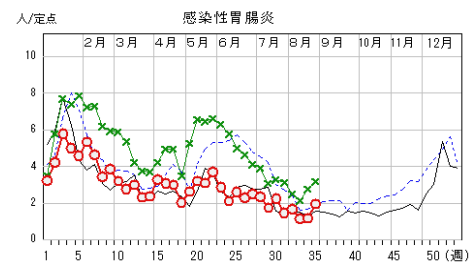


（3）感染性胃腸炎

第35週の報告数は86人で、前週より34人多く、定点当たりの報告数は1.95であった。

年齢別では、1歳（19人）、3歳（13人）、4歳（12人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（9.33）、県央保健所（4.57）、佐世保市保健所（2.50）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第35週の報告数は1,258人で、前週より127人少なく、定点当たり報告数は17.97でした。地区別では、上五島地区（33.00）、県北地区（31.00）、対馬地区（24.67）が他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。令和5年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が「新型インフルエンザ等感染症」から「五類感染症（定点把握）」に変更されました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【インフルエンザ】

第35週の報告数は274人で、前週より118人多く、定点当たりの報告数は3.91でした。地区別にみると、県南地区（18.63）、県北地区（8.75）、対馬地区（8.00）は他の地区より多く、県南地区は注意報レベル基準値「10.0」を超えています。県全体では2週続けて増加していますので、注意が必要です。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第35週の報告数は86人で、前週より34人多く、定点当たりの報告数は1.95でした。地区別にみると県北地区（9.33）、県央地区（4.57）、佐世保地区（2.50）は他の地区より多くなっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

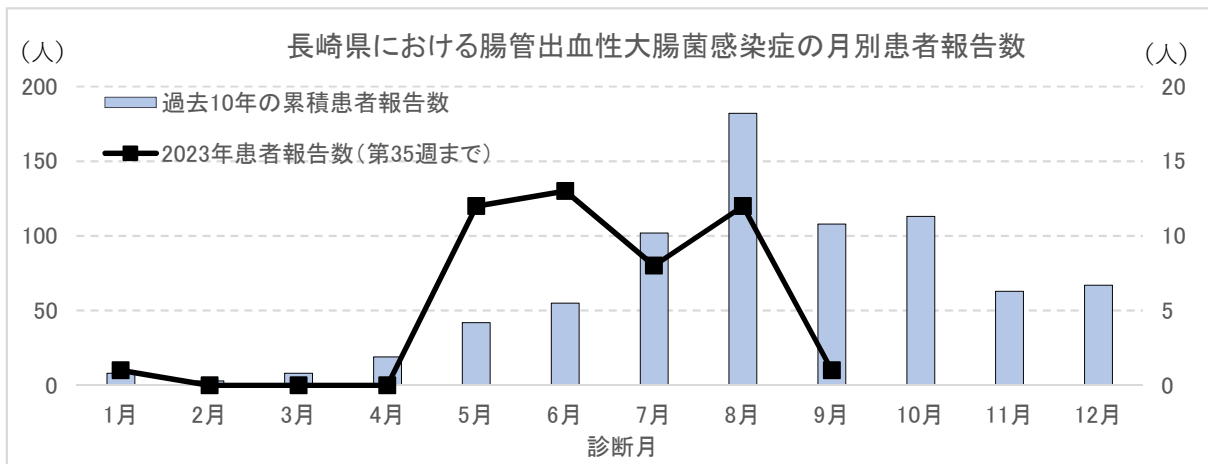
腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。

主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2～9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6～7%が、溶血性尿毒症症候群や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

県内では、2023年第35週までに腸管出血性大腸菌感染症が47例報告されています。

例年夏期に患者数が多い傾向にあります。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。症状があるときは医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用后すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう



☆トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な時期です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。

2023年第35週までに、県内では9例のSFTS、5例のつつが虫病、11例の日本紅斑熱の患者が発生しています。

春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

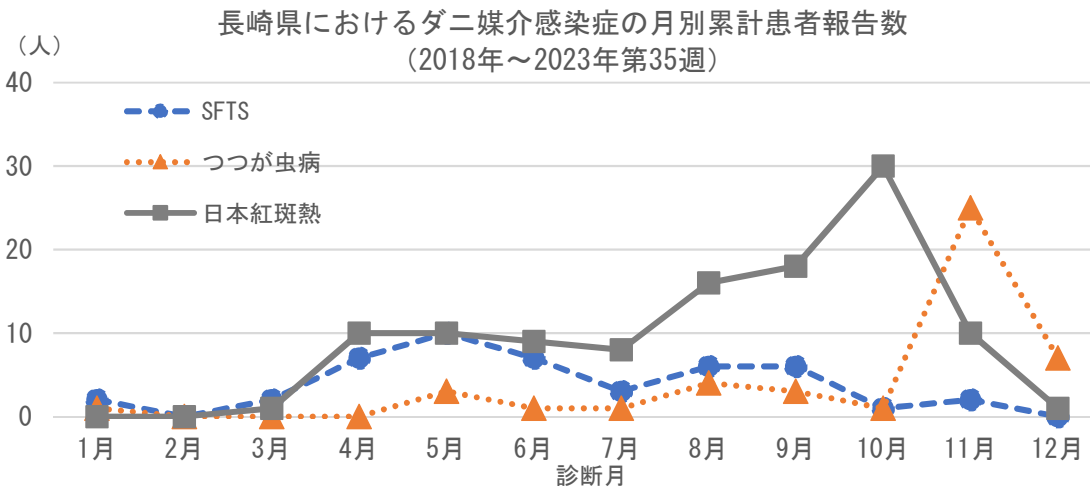
（参考）長崎県感染症対策室 ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/>

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (～第35週)
SFTS	4 (4)	8 (8)	6 (5)	6 (4)	13 (9)	9
日本紅斑熱	19 (11)	15 (10)	18 (5)	28 (13)	22 (4)	11
つつが虫病	8 (2)	1 (0)	11 (0)	14 (3)	7 (0)	5

※()は第35週までの発生件数



☆トピックス：梅毒の報告数が過去最多となっています

長崎県では2023年第35週までに**86件**の梅毒の報告があり、**過去10年の中で最多であった2022年の58件を上回っています**。男性が多く、年代別にみると20代が全体の約半数を占めています。また、妊娠中の4名の報告もあがっています。

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けられます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

（参考）国立感染症研究所 梅毒（外部のページに移動します。）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis.html>

☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第35週：8月28日から9月3日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

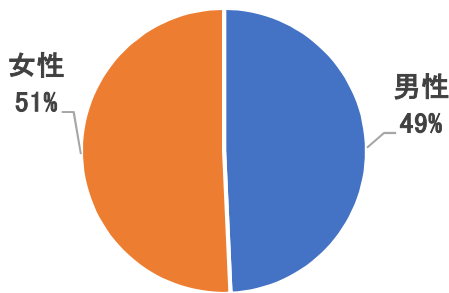
5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2023年第35週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週の「19.79」より減少し、「17.97」でした。長崎地区を除くすべての地区で前週より減少しました。年齢別では、10歳未満が多くなっています。

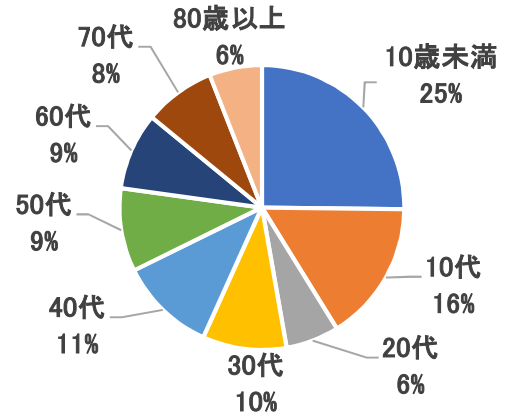
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	1258	302	160	75	158	178	124	45	99	43	74
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	17.97	17.76	14.55	12.50	14.36	22.25	31.00	11.25	33.00	14.33	24.67

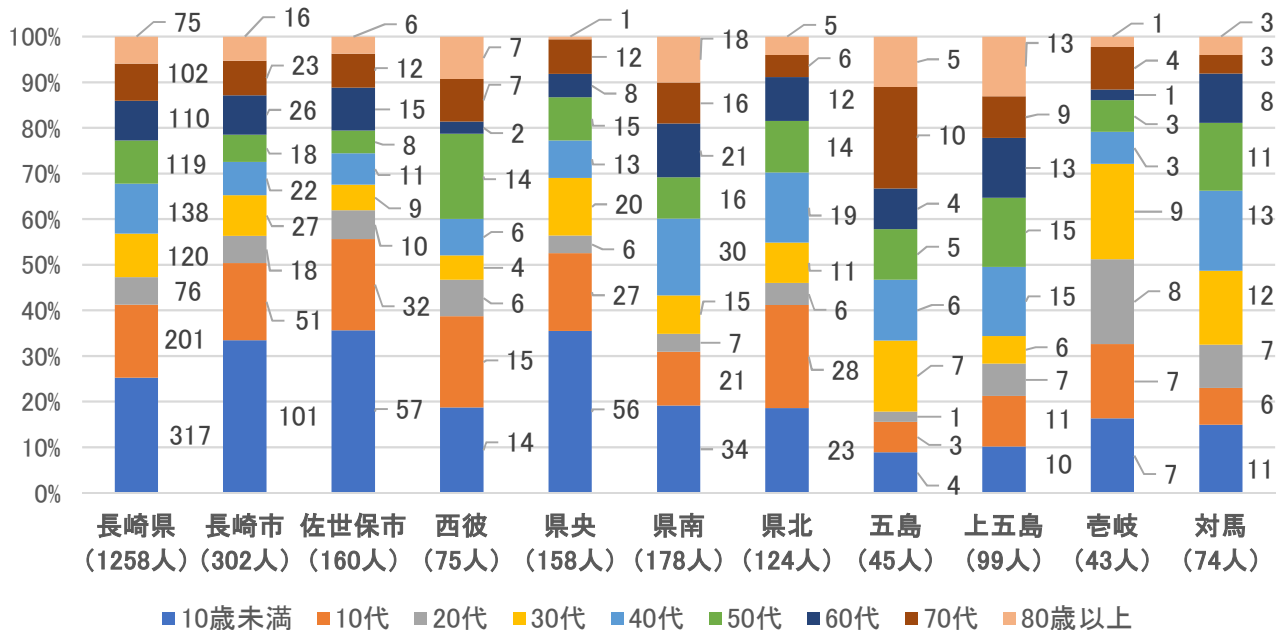
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症： 結核 患者 男性（60代・1名） 女性（80代以上・1名）
無症状病原体保有者 男性（50代・1名）

3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（50代・1名）

4類感染症： 日本紅斑熱 患者 男性（60代・1名） 女性（80代以上・1名）

5類感染症（全数把握対象）： 梅毒 患者 男性（20代・1名、50代・1名）
無症状病原体保有者 女性（50代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第30～35週、7/24～9/3)

疾患名	定点当たり患者数					
	30週	31週	32週	33週	34週	35週
	7/24～	7/31～	8/7～	8/14～	8/21～	8/28～
インフルエンザ	4.80	2.41	2.26	1.44	2.23	3.91
新型コロナウイルス感染症	30.29	28.46	19.96	18.23	19.79	17.97
RSウイルス感染症	2.05	2.48	1.93	0.93	0.98	1.18
咽頭結膜熱	0.25	0.39	0.73	0.66	0.57	1.07
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.64	1.09	1.05	0.89	1.55	1.82
感染性胃腸炎	2.25	1.45	1.66	1.16	1.18	1.95
水痘	0.05	0.02	0.02	0.11	0.11	0.14
手足口病	1.70	1.34	0.98	0.66	1.18	1.68
伝染性紅斑（リンゴ病）					0.02	
突発性発しん	0.25	0.20	0.34	0.18	0.41	0.16
ヘルパンギーナ	1.89	1.70	0.77	0.57	1.09	1.23
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05	0.05	0.02			0.07
急性出血性結膜炎		0.13			0.25	0.25
流行性角結膜炎	0.13	0.13	0.13	0.38	0.25	0.88
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.17	0.08		0.08		0.08
マイコプラズマ肺炎						0.08
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第35週、8/28～9/3) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	3.91	1.00	0.41		0.17	4.27	18.63	8.75			8.00
新型コロナウイルス感染症	17.97	14.55	17.76	14.33	12.50	14.36	22.25	31.00	11.25	33.00	24.67
RSウイルス感染症	1.18	1.33	1.10	0.50	1.00	1.29	3.60	0.33			
咽頭結膜熱	1.07		1.40		1.00	1.57	0.20				8.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.82	1.17	0.50		2.50	1.43	9.20	0.67			
感染性胃腸炎	1.95	2.50	0.60			4.57	1.00	9.33			
水痘	0.14			0.50		0.57	0.20				
手足口病	1.68	3.00	2.70		1.75	1.71	1.20	1.33			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.16	0.17	0.20		0.25			1.00			
ヘルパンギーナ	1.23	0.17	2.00		1.25	2.57	0.80	0.67	1.00		0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.07		0.10			0.14			0.33		
急性出血性結膜炎	0.25						2.00				
流行性角結膜炎	0.88		1.33			1.00	2.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎	0.08							1.00			
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											